

特集：大学説明会

学生による大学説明 ―面接について―

宮地 結（筑波大学 生物学類 2年）

こんにちは。自分を見せる入試、面接試験についてお話させていただきます。

ご存知の通り、生物学類の主な入試は、AC入試、推薦入試、前期入試、後期入試の4つです。この4つの入試の中でなんと3つも学力試験等に加えて面接試験が導入されています。人数に換算すると合格者の1/2は面接試験を経ているのです。このことから、いわゆる学力だけではなく、みなさんがどんな人なのか大学側が知りたいと思っていると推測できます。

多くの人が受けるであろう面接試験。ここでポイントをいくつか紹介したいと思います。

まず、「失敗」してもいいということ。私だけでなく、面接試験を経てこの大学に入学したい人と話をしていると、みんな「失敗したな」と思った瞬間が何度もあったみたいです。ここで言えることは、受験生にとっての失敗と、先生方が思う失敗は違うということ。どう捉えられているのかわからないのだから、そこで立ち止まらないでほしいと思います。次に、面接はコミュニケーションの場であることを意識してほしいと思います。口頭試問型で知識を問う面接もありますが、生物学類は長年そのような問い方はしていません。「なぜ、筑波大学の生物学類を志望したのか。」「高校ではどのようなことをしてきたのか。」そんな、みなさん自身のことをわかってもらえるコミュニケーションの場だと思っています。そして、みなさんのいいところを伝えること。先述したような面接試験です。生き物を愛する気持ちなど、とにかくみなさん自身を宣伝してください。

ここまで面接試験でのポイントをお話してきましたが、これからは面接試験対策を具体的に紹介したいと思います。

第一に、自分のいいところ探しをすること。この探し方がポイントなのですが、自分一人で探すことはなくて、これこそ家族の方や先生、友達の力を借りられる部分です。一人で頑張らなくても、周りの人の助けも是非借りてみてほしいなと思います。第二に、ニュースや本に関心を持つこと。生物学の分野についてももちろんですが、筑波大学もしくは生物学類のニュース等にも関心を持っていることは大切だと思います。第三に、練習してみる。これは回数もある程度こなしているに越したことはありませんが、面接官役を引き受けてくださる方のタイプを変えることも大切なのではなかろうかと思うのです。いつも先生とかではなく、家族の方に相手してもらってはどうか。意外とドキドキして、良い練習になると思いますし、人によって聞いてくる内容がさまざまであることで、本番のどんな質問でも答えやすくなると思います。

入試形態には色々なものがあります。自分にあったものを見つけ、後悔がないような受験をしてくださることを心から願っております。

Communicated by Shinobu Satoh, Received August 15, 2007.